

硫黄島調査特別委員会速記録

平成26年3月13日（木曜日）午前11時開会

出席委員（7名）

委員長	一木重夫君	副委員長	片股敬昌君
委員	高橋研史君	委員	鯨江満君
委員	杉田一男君	委員	池田望君
委員	稲垣勇君		

委員外出席議員（1名）

議長	佐々木幸美君
----	--------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	石田和彦君
教育長	伊藤直樹君	総務課長	江尻康弘君
総務課副参事	鈴木敏之君	総務課企画 政策室長	樋口博君
財政課長	今野満君	村民課長	斎藤実君
村民課副参事	村井達人君	医療課長	佐々木英樹君
産業観光課長	渋谷正昭君	自然管理 専門委員	岩本誠君
建設水道課長	篠田千鶴男君	建設水道課 副参事	増山一清君
母島支所長	箭内浩彌君	出納課長	菊池元弘君
教育課長	牛島康博君		

事務局職員出席者

事務局長	セーボレー孝君	書記	菊池ひろみ君
------	---------	----	--------

議事日程

- 日程第1 NLP（夜間離着陸訓練）を含むFCLP（空母艦載機着陸訓練）について
（経過報告）
- 日程第2 遺骨収集帰還事業について（経過説明）
- 日程第3 訓練について
- 日程第4 墓参及び慰霊巡拝について
- 日程第5 その他
- 日程第6 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから硫黄島調査特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前11時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎説明員の出欠について

○委員長（一木重夫君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（セーボレー孝君） ご報告します。

委員会要求の説明員につきましては、全員出席でございます。

以上です。

◎NLP（夜間離着陸訓練）を含むFCLP（空母艦載機着陸訓練）について

○委員長（一木重夫君） それでは本日の議題に入ります。

日程第1、NLP（夜間離着陸訓練）を含むFCLP（空母艦載機着陸訓練）について、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それでは、ご報告いたします。

NLPを含むFCLPの訓練につきましては、前回12月4日以降本日まで実施はございませんでした。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） 昨日も一般質問で硫黄島に絡めて、この硫黄等の利用について質問させていただきました。

このNLPを含むFCLPなんですが、もう一回確認させてください。これは、在日米軍

再編に伴う現在のところの利用であるということによろしいでしょうか。再確認させてください。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） そのとおりでございます。

○委員長（一木重夫君） 高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） 年数は忘れたんですけども、いわゆる2プラス2、アメリカで行って在日米軍を再編しましょうと、そういう動きの中でここにあったものをどこかに持っていくという流れの中で、硫黄島も使わせていただきたいという、そういう趣旨で村もこれを受け入れて始まった訓練だと思うんですけども、回数は少ないんですけども、結局、今在日米軍再編の流れがいろいろな事情から遅れておまして、そういうほうからして訓練があったりなかったりはするんですけども、今のところは米軍再編のために使っているということなんですけれども、再編が終わったらこの訓練はなくなるという、そういうお約束でそもそも受け入れたんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 再編がなくなったらなくなるということで受け入れたわけではございません。その米軍再編の流れの中でこの訓練を、要は厚木基地等では住民に騒音がうるさいということで、あそこでできないわけですよ。ですから、昨日も申し上げましたが米軍としてはきちっと訓練のできる場所を、厚木基地や例えば岩国から半径150キロぐらいと言っておられるようですが、米軍としてはそういうところで訓練できる基地が固定化していることがまず望ましい。しかしながらそれが可能でないので、今暫定で硫黄島で受け入れているということでございます。

○委員長（一木重夫君） 高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） もう一回すみません。

では、在日米軍再編がこれでロードマップが完了したという時点でも、この訓練は硫黄島において行われる可能性があるということでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） きちっとした米軍の望む恒常的に訓練ができる基地が、その動きの中でできれば当然要らなくなりますね、硫黄島での訓練は。

そうでない場合は、可能性としては生じてくると思います、可能性としてはですよ。

○委員長（一木重夫君） 高橋研史委員。

○委員（高橋研史君）　そうしますと、昨日も話題になりましたけれども、米軍基地の負担を沖縄の負担を減らそうということで、いろいろなところで今それを振りかえてやるという流れの中で、結局、今この硫黄島を訓練のために使おうということは、既に我が小笠原村の硫黄島において、この負担軽減の自主的な訓練というものは始まっているという私は解釈ができると思うんですけれども、そう考えるとやはり防衛とも、我々のもし解釈に立つとすればもうちょっとお話しすることが出てくるんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（一木重夫君）　村長、森下君。

○村長（森下一男君）　米軍と話をしているのは防衛省でありまして、私どもは米軍と直接話をしてるわけではございません。

昨日も申し上げたけれども、今暫定とはいえ硫黄島でやっていることで、沖縄の負担軽減にはどうかわかりませんが、厚木ですとか、ほかのかつてNLPの訓練をやっていたところの負担軽減には相当なっていると思います。

ですから、神奈川県なんかはよく硫黄島に持っていったらいいというようなことを議会で、そういうことがあるというのはそういうことから気にしていることだと思います。

それともう一つ、私ども毎年3月に今回も防衛が来ますが、硫黄島のいろいろな状況を報告とともに、来年度の事業の予定等々について村議会にも説明をし、村にも執行部にも説明をし、旧島民の会でも説明をするというのは毎年やっておりますが、これがなぜやっておるかということは暫定でございますので、毎年毎年そのときの事情を聞いて、今年また来年また受け入れるか受け入れないかということ、そのときに状況を聞いて我々も判断するという中で状況説明に来ているということでございます。

だから毎年毎年暫定ではありますが、毎年毎年いわば来年もということについては、事前の話し合いをして決めている、こういうことでございます。

○委員長（一木重夫君）　高橋研史委員。

○委員（高橋研史君）　よくわかりました。

私の頭の中でも整理がついていないし、今後どう整理つけたらいいかなという考えも私今あるんですよ。

近々防衛の方も来られて、硫黄島連絡調整会議というのはありますので、その場をかりてちょっと整備させていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○委員長（一木重夫君）　村長、森下君。

○村長（森下一男君） 米軍が望んでいるか望んでいないかということ、当事者から、関係から聞いていただければと思います。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎遺骨収集帰還事業について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第2、遺骨収集帰還事業について、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それでは、遺骨収集帰還事業についての経過のご説明をさせていただきます。

最初に、開削調査でございますが、第6回が平成26年1月16日から24日まで実施をされております。

また、第7回が平成26年2月17日から2月25日にかけて実施をされております。

6回、7回とも小笠原村在住硫黄島旧島民の会より1名が参加をしております。

続きまして、遺骨の収容です。

まず通常派遣第8回が、平成25年11月26日から12月17日にかけて実施をされております。収容柱数は9柱でございました。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会は不参加でございました。

続いて、第9回平成26年1月8日から1月20日にかけて実施をされております。収骨柱数は97柱でございました。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より9名が参加をしております。

その後、第10回が平成26年1月18日から2月5日。収容柱数12柱。

第11回が平成26年2月11日から2月26日。収容柱数が9柱。

第12回が平成26年2月25日から3月12日。収容柱数、こちら空欄となっておりますが、昨日終了の事業でございます。5柱ということで確認がとれました。ブランクになってご

ございますので、5柱と記入いただきたく存じます。

よろしく願いいたします。

第9回以降の10回、11回、12回につきましては、小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会は不参加でございました。

続きまして、特別派遣でございます。

第4回の特別派遣が、平成26年1月30日から2月13日にかけて実施をしております。収容柱数につきましては、6柱でございました。

こちらの特別派遣には、小笠原村及び小笠原村在住の硫黄島旧島民の会より8名が参加をしております。この参加者8名のうち5名が、2月13日に厚生労働省のほうで実施をされました遺骨の引き渡し式に参加をしております。

この通常派遣の第12回が終了した時点で、平成25年度の遺骨の収容が終了しております。

通常派遣が第1回から11回となっておりますので、先ほど12回の柱数のご報告をさせていただきました。11回を12回に訂正をお願いいたします。

また、特別派遣が1から4回。この累計の今年度の累計の収容柱数につきましては、先ほどの5柱を加えまして166柱となります。訂正方よろしくをお願いいたします。

報告につきましては、以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） 教えてください。

第9回の通常派遣で大変たくさんのご遺骨を発見されたということなのですが、新しい壕が見つかったりとか、その場所とか、そういうことがおわかりでしたら、教えていただけますでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 場所といたしましては、米軍、アメリカの資料による集団埋葬地として確認をされていた地域でございまして、場所の説明が難しいんですけれども。

（「新しいのが見つかったとか」との声あり）

○総務課長（江尻康弘君） そういうことではございません。

壕とかが見つかったわけではなく、情報による集団埋葬地の収容作業を実施した中で、97柱という実績が出ております。後ほど地図でお見せできればと思っております。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 皆さんも墓参等で行かれていますので、多分おわかりになると思いますけれども、硫黄島平和祈念会館から平和祈念公園を経て、燃料タンクを越えますね。基地の施設のほうに左に曲がって、坂を上り切ったところの右手あたりでございます、ちょうど場所的には。

○委員長（一木重夫君） よろしいですか。

その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎訓練について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第3、硫黄島における訓練について、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 訓練につきましての報告をさせていただきます。

エアークッション艇の訓練が平成25年12月11日から13日にかけて実施をされております。

報告は以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

次に、日程第4、墓参及び慰霊巡拝について執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 墓参及び慰霊巡拝につきましてのご報告をさせていただきます。

最初に硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参について、こちらは東京都の主催でございます。

平成26年2月28日に実施をされました。参加者は55名です。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より6名が参加をしております。

次に、硫黄島慰霊巡拝事業、こちらは厚生労働省の主催の事業でございます。平成26年2月26日に実施をされております。参加者は41名、うち遺族の方が33名でございます。

次に、日米硫黄島合同慰霊追悼顕彰式、日米合同慰霊祭と呼ばれておりますけれども、これが来週になります。平成26年3月19日実施予定でございます。参加予定が約90名とお聞きしております。日本側の実施主体は硫黄島協会。アメリカ側の実施主体はアメリカ海兵隊退役軍人会でございます。

報告につきましては、以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

ございませんか。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） この日米合同慰霊祭、私毎年議会定例会あるころにありますよね。去年もちょうど定例会があるころに、この合同慰霊祭ありました。

この慰霊祭、非常に歴史的に何と申しますか、日本とアメリカと本当に死闘かけて戦った、そういう人たちが戦後涙を流して抱き合ったという歴史的なそういう場所であるわけですね。

ここにできれば私も参加したいと思っておりますけれども、かつて大統領に宛てた手紙というレーガン大統領に宛てた手紙、マイケル・R・ジャコビーさんという方ですかね。何歳になるのかちょっとわかりませんが、本当に大変反響を受けたという手紙の内容があります。国際コンクールで優秀賞を受けたという内容ですけれども、こういう今回委員長がここに参加されるという話聞きましたので、ぜひこの内容、しっかりと写真だけでなく心にもとめて書いていただきたい、そのように思います。

後での報告を楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員長（一木重夫君） 了解しました。

その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第5、その他事項として執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それでは、その他事項の説明をさせていただきます。

最初に硫黄島旧島民平和祈念公園管理事業でございます。

第4回が平成26年1月14日から1月17日にかけて実施をされております。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より5名が参加をしております。

第5回が平成26年2月14日から2月19日にかけて実施をされております。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より6名が参加をしております。

第6回でございますが、来週になります3月17日から3月20日にかけて実施予定でございます。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より6名が参加予定でございます。

続きまして、硫黄島の防衛関連施設視察についてのご報告をさせていただきます。

平成26年1月23日に視察のほう実施しております。参加者につきましては、本委員会委員長ほか2名、計3名。それから、執行部のほうは医療課長ほか、医療課の職員2名、計3名、合計で6名が視察をいたしております。

報告につきましては、以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） 本年1月23日に硫黄島の関連施設視察に、医療課職員の方も3名参加したということです。

目的は急患搬送をより円滑に行うため、また問題点があればそこも見てくるという視察の目的だったと思うんですけれども、結果はいかがだったでしょうか。何か問題点は聞いておりますか。

○委員長（一木重夫君） 医療課長、佐々木君。

○医療課長（佐々木英樹君） 限られた時間ではありましたが、急患搬送での患者引き継ぎの円滑な対応を行うためということが目的でありまして、硫黄島航空衛生隊の施設の視察、それと医官との意見交換というのができました。

かなり疑問に思っていたドクターですけれども、診療所のドクター笠井所長、それと加藤看護師、このお二人がこれまでいろいろと疑問があったんですが、それを医官との意見交換で解消できたということで、今後よりよい急患搬送の引き継ぎができるというふうに感じられました。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

村長、森下君。

○村長（森下一男君） 先ほど高橋委員との間での質疑のやりとりの中で、日米再編の中でNLP訓練が行われているのかと、これ私そうですと答えましたが、これ誤りはないんですが、より正確を期して、答弁の訂正をさせていただきたいと思います。

日米再編のロードマップができる前から、実はNLPの訓練はまず硫黄島で行われていたということ。それから昨日の一般質問でご答弁しましたが、日米再編のロードマップができたとき、まず厚木から岩国へ移駐が行われる。

それから、先ほど来恒常的な施設という話をしていましたが、恒常的な施設の検討をするということがここで示されているんです、ロードマップの中で。現在日米安保のもと日本は訓練の受け入れ先を今模索しているというところでの暫定受け入れであるということが正確なところでございますので、ですから再編の中の位置づけであることは間違いありませんが、その前からNLPの訓練をやっていたということですね。これは厚木に基地があったときからやっていたということでございますので、正確を期して今答弁、訂正をさせていただきます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） それでは委員長のほうから、今回の行政視察について簡単にご報告させていただきます。

私と片股副委員長、あと杉田委員の3名で島内を視察いたしました。委員会としては初めてだと思うのですが、硫黄島の医療現場を視察しました。

また、遺骨収集の現場や滑走路下の空洞地調査、また今、村で車の管理を委託で出しておりますけれども、そのような管理状況の視察をしてきてございます。

以上でございます。

その他何かございませんか。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 私も先ほど委員長お話しありましたように、参加をさせていただきました。

滑走路下の調査3カ所ほど、私が行ったときに行われたということで、空洞のところにカメラを入れて中を調査しまして、遺骨があるかどうかということ調べたわけですが、私が行った時点で3カ所は残念ながら柱、ご遺骨は発見されておりました。

かなり滑走路から海に向けての長い空洞が何カ所かあるようですね。継続的にこれから調査するという、そういう報告でした。

私その後行きましたのは、先ほど池田委員から質問がありました滑走路下の西側のところですね。委員長から資料をいただいているんですが、ほかの人に行っていないですか。

ここにシャーマン戦車というのが写っているんですけども、このシャーマン戦車からすぐ近くのところにたくさんのご遺骨があったわけですね。ちょうど行きましたときに97柱という大変たくさんのご遺骨が見つかって、その前が余りなかったですね。

その2つ前ぐらいがゼロだったと思うんですけども、実は質問しようかなと思ったんですが、この97柱ご遺骨見つかったから、その後幾つか見ついているわけですよ。これ全て同じ場所で実は見つかったんでしょうか。その調査というのは継続されていたんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 先ほどご説明しました97柱の収骨は1月8日から1月20日にかけて実施されたときの柱数でございます。

これに引き続いて1月18日から2月5日にかけて、第10回というものが行われております。当初、この第10回につきましては、別の場所の予定をしておったんですけども、その第9回でかなりの柱数の収容ができたということと、まだ確認する必要があるということで、この第10回につきましても、第9回の場所を引き継いで実施をするということに変更になっております。

今関係資料持ち合わせていないんですけども、11回以降とそれから特別派遣の4回につきましても、場所につきましては、また後ほど資料のほう提出できるかと思っております。

○委員長（一木重夫君） 後ほど資料提出ということで。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 私ども行きましたときに、非常にヘリコプターに乗っている方も非常に考慮してくれまして、北部のところから時計回りにずっと1周して回っていただきまして、全体像初めて知ることができました。

次の機会に誰か議員の方行かれると思うんですけども、本当に行くたびに新しい発見がある、そういう島だなと思います。硫黄島の関係者、ここの重要性というのを改めて感じたのは、やはり民間の方々があそこでたくさんいらっしゃる。そういう方々の仕事、生活が安心して生活できるというのは、やはりこの硫黄島にああいうしっかりした遺物があるということを感じました。

今後とも小笠原と硫黄島の関係者との交流というのは必要だなということ、感じて帰ってきた次第です。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

次に、会議規則第74条の規定に基づく委員派遣について、お諮りします。

お手元に配付の資料のとおり、3月18日の結団式、19日の日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式に出席するため、私一木を3月16日から3月23日までの間、東京経由で硫黄島に派遣したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認め、そのように委員を派遣することと決定しました。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第6、本委員会の閉会中の継続調査について、お諮りします。

お手元に配付の事件調査のために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることに決定しました。

◎閉会の宣告

○委員長（一木重夫君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、硫黄島調査特別委員会を閉会します。

お疲れさまでした。

（午前11時35分）